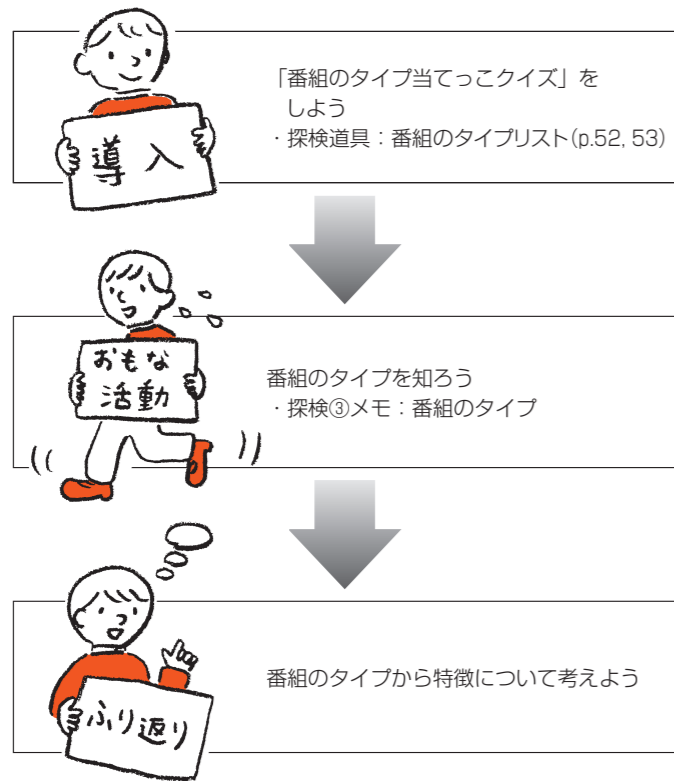


3-3

「テレビ番組のタイプを知ろう！」

流れ



導入—「番組のタイプ当てっこクイズ」をしよう

保育・教育の場

家庭

活動をはじめる前に、子どもたちに、「番組のタイプを知ることは楽しい」というイメージをもってもらうために、「番組のタイプ当てっこクイズ」をします。

◆最初の問いかけ

すでに探検②の活動をおこなっている場合は、そこで書いたテレビ日記を再度使い、たとえば、「このテレビ日記に書いてある〇月〇日に見た番組〇〇（アニメ番組名）は、なんの番組だったかな？」と問いかけます。テレビ日記に書かれたいくつかの番組について、クイズ形式で聞いていきます。探検②のテレビ日記をおこなっていない場合は、「きのうの晩に見た〇〇は、なんの番組だったっけ？」と類似の問いかけをすればいいでしょう。

保育・教育の場

OHCや電子黒板を用いて、子どもたちが書いたテレビ日記を映し出しながらクイズをおこ

なうとわかりやすいでしょう。子どもの回答は、アニメ、クイズ、歌など、身近な番組のタイプに偏っていることが予想されます。

◆クイズのルール

ここで、「じつは、テレビには、もっといろいろなタイプがあるんだよ」「今からいろいろな番組をちょっとずつ見ます。どんなタイプか当ててみてね」と言い、録画しておいた番組（ドキュメンタリー・ニュースなど、見慣れないものも含めるようにする）のダイジェスト版を1分程度ずつ流します。あるいは、番組のサイトを見る方法もあります。番組を録画するのがむずかしいときは、新聞のテレビ欄やテレビガイドなどを参考に、おとなが番組を選び、その場で即席クイズを一緒にやるとよいでしょう。子どもは、新しい番組のタイプと名前を知ることになります。

◆クイズのまとめ

クイズが1問終了するごとに、子どもたちに《探検道具：番組のタイプリスト（子ども用）》を見せて、ゆっくり説明していきます。番組のタイプを、すべて完璧に教える必要はありません。子どもにとって、知っている番組と知らない番組があったこと、いろいろな番組があること、タイプの特徴をひと通り知ることが、ここでのポイントです。レベル3（あやふや期）、レベル4（わかりかけ期）の場合は、《探検道具：番組のタイプリスト（子ども用）》のイラストがヒントになることを伝えましょう。文字がまだ読めない場合は、イラストを指さして回答するとよいでしょう。



活動—番組のタイプを知ろう

保育・教育の場

家庭

子どもがいつも見ている番組について、番組の内容をどのように理解しているか、《探検③メモ：番組のタイプ》に記入することで、確認していきます。探検③の活動で使用する探検メモは1種類で、保育・教育の現場と家庭の両方で使用できます。

保育・教育の場

《探検③メモ：番組のタイプ》は、記入欄が多いので、子どもたちが記入する速さや内容を随時チェックし、そのときの保育の流れで回答する項目をしぼるなどし、記入時間を調整するといいでしょう。レベル4（わかりかけ期）以上の場合は、子どもが各自で記入します。基本的には、いつも見ている番組を中心に書きます。絵を描くだけでなく、その番組の内容についても文字でも書いてもらいます。OHCや電子黒板を使用すると、子どもたちが書いた《探検③メモ：番組のタイプ》をそのままスクリーンに投影したり、クラス全員の《探検③メモ：番組のタイプ》を一齐に掲示したりしながら、話し合うことができます。《探検③メモ：番組のタイプ》を宿題として事前に配布しておいてもよいでしょう。一人ひとりが、じっくり番組について向き合う雰囲気をつくるのがポイントです。

家庭

子どもに「〇〇ちゃんの好きな番組はなんだっけ？」と語りかけ、一緒に話しながら《探検